



滋賀バルブだより

滋賀バルブ協同組合

〒522-0037 彦根市岡町 52

TEL 0749-22-4873 FAX 0749-22-0463

2019年上半期の対前年比較表

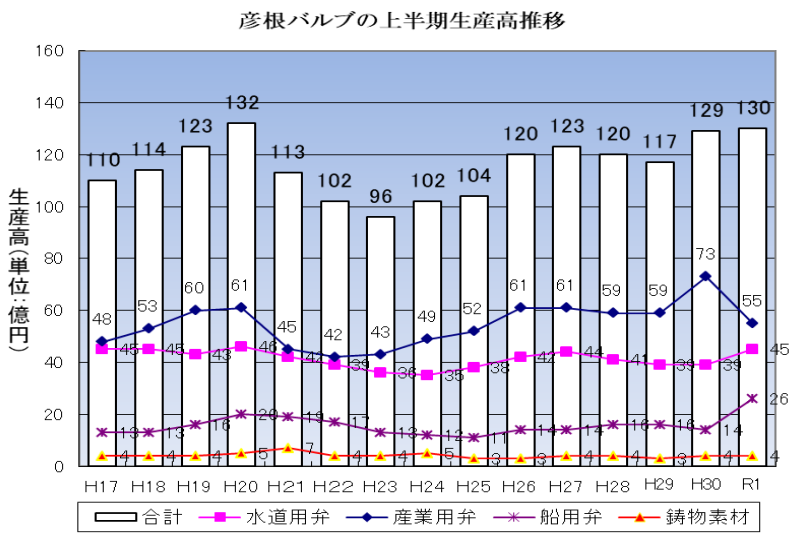
(単位：百万円)

種 類 別	2019年 (1~6月)	2018年 (1~6月)	増 減 率 (%)
水道用弁	4,473	3,877	15.4
一般産業用弁	5,484	7,267	-24.5
船用弁	2,625	1,372	91.3
鋳物素材	425	398	6.8
合 計	13,008	12,914	0.7

2019年度上期バルブ生産高調査結果
前年比0.7%増の130億円台

2019年上期(1月~6月)バルブ生産高調査(21社)の結果がまとまり、生産高は130億800万円と前年同期比で9400万円増、増減率でプラス0.7%となりました。業種別では水道用弁が前年同期比プラス15.4%(5億9600万円増)の44億7300万円と4年振りに増加しました。要因としては、販売価格の改正への理解と協力が得られてきた事と、東京都の発注が少し前倒しで実施されているためと思われる。産業用弁は前年同期比マイナス24.5%(17億8300万円減)の54億8400万円と建築関係を除いて大きく減少しました。2018年度上期は大幅に増加しましたが、その増加額以上の減少となりました。中国経済の冷え込みによる影響もあり、国内設備投資計画の延期や見直し等が原因と思われる。

船用弁は前年同期比プラス91.3%(12億5300万円増)の26億2500万円と大きく増加しました。これは、2018年度より船用エンジン排ガス規制装置向けバルブ

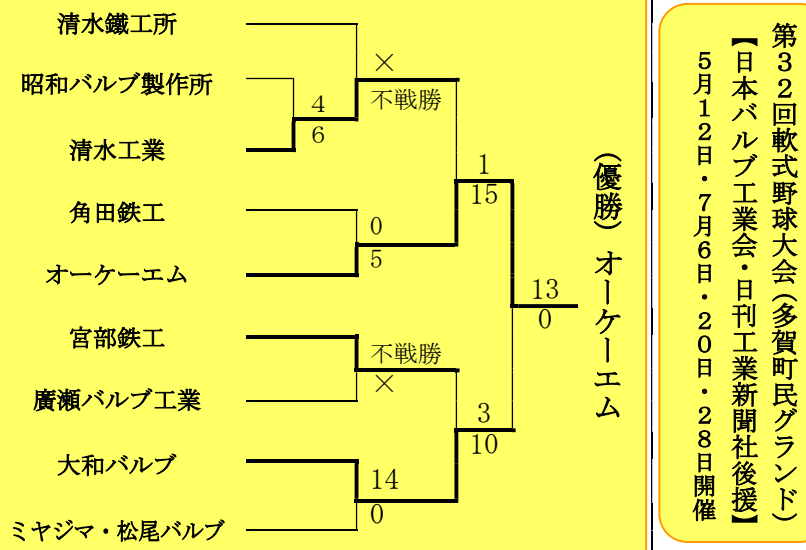


の国内外からの引き合いが好調で増産体制を整ったことに加え、全般的に国内の造船所からの受注が堅調に推移しているためと思われます。

鋳物素材は、前年同期比プラス6.8%(2700万円増)の4億2500万円と国内メーカーからの堅調な受注により増加しました。

今後の見通しとしては、産業用弁は建設関係が堅調に推移すると思われませんが、他の分野については、前年同期と比較すると厳しい受注状況になりそうです。水道用弁は東京オリンピックが来年に開催され道路工事が出来ない影響が予想されますが、販売価格の改正もあり生産額は横ばい状態で推移するものと思われれます。船用弁は、下期も好調に推移すると思われれます。

- 賛助会員入会21社**
- アクアシステム(株)
 - 一圓テクノス(株)
 - 近江化学工業(株)
 - 大垣機工(株)
 - 川崎製作所
 - 京華産業(株)彦根支店
 - 島津産機システムズ(株)
 - 鈴木鋳造(株)
 - ㈱ダイト
 - ㈱高砂商店
 - ㈱たけびし滋賀支店
 - 内外産業(株)彦根営業所
 - ㈱ナツハラ
 - 夏原工業(株)
 - 能勢鋼材(株)滋賀工場/営業所
 - 光塗料(株)
 - 彦根急送(株)
 - 琵琶湖機械工具(株)
 - 松井鋼材(株)滋賀支店
 - 松金工業(株)



安全標語

本年度の安全標語の募集には、17社558名の応募があり、去る7月11日に、彦根労働基準監督署長、同安全衛生課長、正・副理事長を審査員として審査会を開催、次の通り優秀作品が選ばれた。

一席 目配り 気配り 危険予知
 事故の芽 摘み取る プロ意識
 廣瀬バルブ工業(株) 中川 恵理子

二席 気をぬくな わずかな油断で
 大きな代償
 (株)ユコー 辻 宏

二席 安全は
 明日の笑顔に 繋がるバトン
 (株)昭和バルブ製作所 藤野 和江

三席 危険だと 思った瞬間
 声かける 仲間の安全第一に
 (株)オーケーエム 近成 信彦

三席 あわてるな!
 出したその手が挟まれる
 ゆとりを持って安全確認
 (株)昭和バルブ製作所 佐々木 瑞貴

三席 ルールを守り・守らせる
 一人ひとりが監督者
 注意しあえる大事な仲間
 角田鐵工(株) 本村 浩

ヒヤリの経験あるはずですが
 隠さず報告 みんなで改善
 後に回すな危険の放置!
 廣瀬バルブ工業(株) 清瀬 薫

佳作 早くやるより正確に
 焦ってやるより確実に
 一息入れて安全行動
 (株)清水鐵工所 田中 誠一

佳作 令和時代の幕明けに
 気持ちは新たに掲げよう
 災害ゼロの安全職場
 清水工業(株) 山本 昭二

佳作 ちよつと待て! その作業は安全か?
 作業の裏には危険あり
 見つけよう 摘み取る 危険の芽
 (株)清水合金製作所 藤田 幸男

彦根労働基準監督署長特別賞
 機械はただ動く
 何をしたら危険か 考えるのは人
 (株)清水合金製作所 螺良 隆史

滋賀県立大学特別講義

去る7月16日、滋賀県立大学工学部1年生機械システム概論「バルブと地場産業」と題して、松尾バルブ工業(株)専務松尾直樹氏が特別講義をされました。

これは、4年前より滋賀県立大学から依頼を受け「バルブ産業の知名度アップ」と将来を担う人材確保の活動として、青年部が実施しているものです。

新人・若手社員向け研修会

青年部が主体となり、去る7月18日に開催した「新人・若手社員向け研修会」には、10社32名の参加がありました。

尚、講習会等で使用するテキスト「バルブの基礎知識」改訂版は、今年度制作を予定しております。